

研修報告書（研修費）

令和 6 年 1 1 月 1 3 日

長久手市議会議長
木 村 さ ゆ り 様

長久手市議会議員 岡崎つよし

政務活動費を充てることができる経費の範囲の運用指針により次のとおり届け出ます。

年 月 日	令和 6 年 1 0 月 1 7 日（木）から 令和 6 年 1 0 月 1 8 日（金）までの 2 日間
研 修 先	第 8 6 回全国都市問題会議 （行程表は別表のとおり）
成 果	別紙のとおり
経 費	金 4 4, 4 9 0 円（政務活動費対象経費） 金 4 4, 4 9 0 円（全体経費） （明細は別添のとおり）
提 出 資 料	○研修先資料 ●領収書の写し ○ガソリン代支出記録、ルート表、ガソリン代領収書添付書（車で行った場合に限る。）

※研修を実施した後は議長に 1 カ月以内に提出するものとする。ただし、1 カ月以内が翌年度の 4 月 2 0 日を経過する場合は 2 0 日までとする。

※研修前後の調査研究については対象とできる。ただし、その場合は実施日の 2 週間前までに別紙様式第 1 号の「行政視察届（調査研究費）」に行程表を添付して議長に提出する。また、調査研究にかかる費用は、「調査研究費」の科目で整理する。

行程表

第86回全国都市問題会議

第1日目：令和6年10月17日（木）

藤が丘駅	→ 地下鉄	名古屋駅	→ 新幹線	姫路駅	→ 徒歩	アクリエ姫路 基調講演など	→ 徒歩	東横イン姫路駅新幹線南口 （宿泊）
	06：59発	07：28着	07：37発	09：14着		9:30～16:30		17:00着

第2日目：令和6年10月18日（金）

宿所	→ 徒歩	アクリエ姫路 パネルディスカッション	→ 徒歩	姫路駅	→ 新幹線	名古屋駅	→ 地下鉄	藤が丘駅
	9：00発	9:30～11:50			13:59発	15:19着	15：41発	16：09着
宿泊	東横イン姫路駅新幹線南口		姫路市南駅前9 7					

費用明細

地下鉄	藤が丘	⇔	名古屋	310円×2	=	620 円
新幹線	名古屋駅	⇔	姫路駅	18,270円	=	18,270 円
参加費						13,000 円
宿泊費						12,600 円
合計						44,490 円

第86回 全国都市問題会議

研修報告書 長久手市議会議員 岡崎 つよし

日程：令和6年10月17日・18日

開催市：兵庫県姫路市

会場：アクリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター）



全国都市問題会議とは 公益財団法人 後藤・安田記念東京都市研究所が設立したものであり、市長、特別区長、市区議会議員など自治体関係者及び、研究者が一堂に会し、その時々課題となっている都市問題、地方自治についての議題を討議する場である。

会議の歴史は古く、1927（昭和2年）に大阪市で開催されたのがはじまりとなる。第3回以降は、この財団が事務局を担当し、1952（昭和27）年以降は、全国市長会と財団の共催、今日では開催市、全国市長会、日本都市センター、後藤・安田記念東京都市研究所の4者共催となっている。

1日目は青山学院大学教授 福岡伸一氏から生命を捉えなおす（動的平衡の視点から）と題して基調講演を行った。

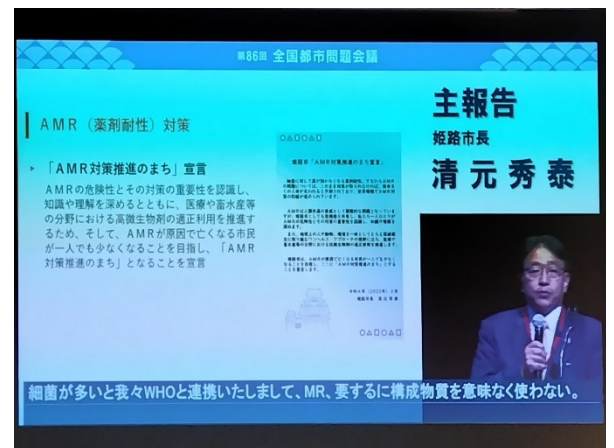
講演内容は、現代人が命の問題を考えると、当たり前のこととしている前提がある。それは、命とは、手、足、胴体、頭、あるいは各臓器といった部品が組み合わさってできた、プラモデルみたいなものであるという見方である。機械論的生命観といってもいい。だから、壊れたところは取り換えればよいし、古いところは新しくす

ればよい。

しかし、この考え方は私たちの体を考える上で本当に正しい命の見方なのだろうか。自らを積極的に壊し続けることによって、系内にたまるエントロピーを捨てつづけ、またそれを作り直すことでなんとかバランスを保つ。それが生命体の特性である。

シェーンハイマーの思考を発展させ、これを「動的平衡」と呼びたい。動的平衡の生命観は、適応的で、相補的であり、同時に、レジリエントなものであることも説明してくれる。ポストコロナの生命哲学としての、動的平均論についての話を伺った。

次に、兵庫県姫路市長 清元秀泰氏から『市民の「LIFE」（命・くらし・一生）を守り支える姫路の健康づくりとまちづくり』と題して主報告を行った。



人口減少・少子高齢化が進む困難な時代において市民の「LIFE」を守り、まちに活力を生み、明るい未来を切り開いていく原動力は人であり、健康は人づくりの根幹であるものと考えている。市民の健康づくりを促進するためには、市民の健康状態を把握し、改善・自立を促すだけではなく、市民自らが健康増進に資する活動へ積極的に参画するとともに、日々の生活を送る中で自然と健康になれるような社会環境を構築していくことが重要である。

姫路市では、これからも子どもから高齢者まで全ての市民の「LIFE」が輝き、誰もが健やかに生き生きと暮らせるまちの実現を目指したい。との報告があった。

その後、筑波大学システム情報系教授谷口守氏が「生き物から学ぶ健康なまちづくり」、また、流山市市長 井崎義治氏が「都市そのものを健康にするまちづくり」、さらに、兵庫県立大学副学長 畑 豊氏がIT/AIの健康分野への適用例と題して、それぞれ一般報告を行った。

2日目は今回のテーマ「健康づくりとまちづくり」について中央大学法学部 宮本太郎氏をコーディネーターとして高岡病院児童精神科医 三木崇弘氏、高岡病院児童精神科医 三木崇弘氏、NPO 法人日本栄養パトネット理事長 奥村圭子氏、長野県茅野市長 今井 敦氏、大阪府泉大津市長 南出賢一氏によるパネルディスカッションを行った。

コーディネーターの宮本太郎氏の少子高齢化時代のまちづくりを考えると、「元気人口」を増やすことこそが焦点であると考えている。でも、「元気」とか「健康」ってどういうことだろうか。どのような市民を考えながら施策をすすめていけばよいのだろうか。そもそも人々の「元気」や「健康」のために自治体ができることは何か。健康問題は市民誰もが当事者で、誰もが関心を高めるテーマである。との話は共感した。

【所見】

今回の都市問題会議のテーマは、「健康づくりとまちづくり」である。

流山市市長 井崎義治氏からは「都市そのものを健康に」するために、「すべての政

策に健康視点を」を基軸とした政策の立案と推進により、すべての市民のストレスを軽減し、同時にリフレッシュできる環境整備や施策展開に継続的に取り組んでいき、市民の **Well-Being** を実現することが、流山市民の健康と幸せにつながるとの報告があった。

姫路市長の勢いのある話や筑波大学システム情報系教授の生物学的な視点からのまちづくりや、兵庫県立大学副学長の健康をデータ化して状態をわかりやすく把握する話や、最新の不妊治療の話がありためになった。

今回の都市問題会議に出席して、地域における健康づくりはこれまで取り組まれてきた領域を大きく超えて、まちづくりそのものと重なってきていることがわかり大変有意義な会議であった。